

日本国際政治学会 2014 年度研究大会分科会プログラム

本プログラムは、2014 年 8 月 25 日現在の暫定版です。最終的なプログラムは大会当日に配布いたしますのでご了承ください。プログラムに関するお問い合わせは、分科会代表幹事（湯浅剛：yuasa.takeshi@gmail.com）までお願いいたします。

◆11 月 14 日（金）

分科会セッション A（15:45～17:15）

A-1 日本外交史 I

責任者 加藤聖文（国文学研究資料館）

テーマ 日米安保体制の再考

司会 加藤聖文（国文学研究資料館）

報告 鍛冶一郎（大阪大学）

「安保条約と条約期限——日米同盟強化の道のり」

藤田吾郎（早稲田大学）

「対日講和と『国内治安問題』——『内乱条項』挿入をめぐる日米政府の構想」

小島吉之（大阪大学）

「安保改定と秘密保護——なぜ防諜法案は挫折したのか？」

討論 未定

A-2 欧州国際政治史・欧州研究 I

責任者 芝崎祐典（成城大学）

テーマ ヨーロッパ大陸の外から見る地域、統合、ナショナリズム

司会 板橋拓己（成蹊大学）

報告 大島美穂（津田塾大学）

「戦間期欧州国際秩序への二つの志向性——ノルウェーの極地における国際協調主義と領土拡張主義」

石野裕子（常磐短期大学）

「カレリア学徒会の『大フィンランド』——戦間期フィンランドにおける領土膨張思想と運動」

池本大輔（明治学院大学）

「アラン・ミルワード再考」

討論 八十田博人（共立女子大学）

森井裕一（東京大学）

A-3 東アジア国際政治史

責任者 岩谷将（防衛研究所）

テーマ 冷戦期中国・台湾の外交

司会 岩谷将（防衛研究所）

報告 米多（東京大学）

「冷戦期における中華民国の外交政策（1950-1975）」
杉浦康之（防衛研究所）
「日中『断絶』期における中国の対日政策（1958年5月-1960年7月）」
討論 清水麗（東京大学）
大澤武司（熊本学園大学）

A-4 東アジア I 責任者 西野純也（慶應義塾大学）

テーマ 日韓関係の新しいアクター
司会 西野純也（慶應義塾大学）
報告 ブフ アレクサンダー（ウェリントン・ビクトリア大学）
「竹島・独島領土問題と日本及び韓国における非国家主体」
李苑暻（早稲田大学）
「日韓サイバー空間での右翼の形成とこの影響に関する研究」
討論 磯崎典世（学習院大学）
西野純也（慶應義塾大学）

A-5 東南アジア I 責任者 山田満（早稲田大学）

テーマ 自由論題
司会 永井史男（大阪市立大学）
報告 島崎裕子（早稲田大学）
「人の移動と国境管理の関係——タイ・カンボジア国境地域・ポイペトを事例に」
本多倫彬（慶應義塾大学）
「東ティモールと日本の平和構築政策——『平和構築支援』の変化に焦点を当てて」
峯田史郎（早稲田大学）
「境界地域における生活者の領域管理——ミャンマー・シャン州南部ロイタイレン村を事例に」
討論 石井由香（静岡県立大学）
山田満（早稲田大学）

A-6 理論と方法 I 責任者 石黒馨（神戸大学）

テーマ 国内紛争の実証分析——内戦の過程、終了、平和構築
司会 市原麻衣子（関西外国語大学）
報告 大林一広（一橋大学）
「権力分有協定の効果の検証」
大村啓喬（滋賀大学）
「軍事勝利と内戦後の平和期間」
窪田悠一（新潟県立大学）
「反乱軍の脅威と政府による市民の弾圧——グアテマラ内戦を事例として」
討論 山本吉宣（新潟県立大学）

A-7 国連研究 I 責任者 山田哲也（南山大学）

- テーマ 自由論題
 司会 山田哲也（南山大学）
 報告 佐藤裕視（東京大学）
 「植民地独立をめぐる国際的『了解』の形成と国連の役割——国連信託統治領の早期脱植民地化を事例に」
 赤星聖（日本学術振興会／神戸大学）
 「『国内避難民』保護をめぐる国際レジームの動態」
 討論 山田哲也（南山大学）

分科会セッション B (17:30~19:30)

- B-1 欧州国際政治史・欧州研究Ⅱ** 責任者 芝崎祐典（成城大学）
 テーマ 冷戦史研究の先端
 司会 芝崎祐典（成城大学）
 報告 益田実（立命館大学）
 「冷戦史研究の近年の動向と冷戦像をめぐる議論」
 松本佐保（名古屋市立大）
 「冷戦史研究への新視点——グラディオ作戦とイタリア」
 岡本宜高（関西学院大学）
 「キャラハン政権期のイギリス安全保障政策とヨーロッパにおける冷戦の展開」
 討論 倉科一希（広島市立大学）
- B-2 東南アジアⅡ** 責任者 山田満（早稲田大学）
 テーマ 自由論題
 司会 山田満（早稲田大学）
 報告 高橋正樹（新潟国際情報大学）
 「タイの 2006 年クーデタをめぐる——グローバリゼーション時代の分裂社会と国家エリート」
 森川裕二（長崎大学）
 「ラオスの地域秩序形成と国民統合プロセス」
 山根健至（福岡女子大学）
 「フィリピンの治安部門ガバナンスと市民社会組織——アキノ 3 世政権下の取り組みを中心に」
 討論 相澤伸広（九州大学）
 吉川健治（東洋英和女学院大学）
- B-3 中東** 責任者 末近浩太（立命館大学）
 テーマ 中東諸国における軍のパワーとアイデンティティ
 司会 末近浩太（立命館大学）
 報告 餅井雅大（防衛研究所）
 「イスラエル国防軍とアイデンティティと軍事史——機関誌『マアラホッ

ト』の言説分析」
吉川卓郎（立命館アジア太平洋大学）
「国王陛下の軍隊——ヨルダン・ハシミテ国王の『軍事力』の再検討」
討論 池田明史（東洋英和女学院大学）

B-4 理論と方法Ⅱ

責任者 石黒馨（神戸大学）

テーマ 国際政治の理論——史観・秩序・暴力
司会 石黒馨（神戸大学）
報告 山下範久（立命館大学）、安高啓朗（立命館大学）、芝崎厚士（駒澤大学）
「ウエストファリア史観を脱構築する——言説、理論、歴史」
福田潤一（世界平和研究所）
「国際関係における階層的秩序の考察——ポスト冷戦期の米国外交を題材に」
伊藤岳（東京大学）
「内戦における暴力行使とその帰結」
討論 竹内俊隆（大阪大学）

B-5 国際統合

責任者 山本直（北九州市立大学）

テーマ 地域統合の現段階
司会 山本直（北九州市立大学）
報告 岩野智（早稲田大学）
「EUにおける開発協力政策と共通外交・安全保障政策の連結——対アフリカ紛争予防・平和構築支援のための制度的仕組み」
大道寺隆也（早稲田大学）
「対テロ政策をめぐる国際機構間関係——地域的国際機構の《協力》と《抵抗》」
浦川絃子（立命館大学）
「EU 刑事司法協力の対外関係——日・EU 関係を中心として」
齋藤亜紀人（早稲田大学）
「地域統合と環境の保全・保護——EU と ASEAN における加盟国・地域的機関の関係と共通ルールの発展」
討論 八谷まち子（九州大学）
鷺江義勝（同志社大学）

B-6 安全保障Ⅰ

責任者 福田毅（国立国会図書館）

テーマ 自由論題
司会 福田毅（国立国会図書館）
報告 原田有（防衛省防衛研究所）
「海洋法秩序の下での権益を巡る国家間対立——南シナ海問題の考察」
中村長史（東京大学）
「撤退決定の政治過程——イラク駐留はなぜ長期化したのか」
彦谷貴子（防衛大学校）
「日本にシビル・ミリタリー・ギャップは存在するか——2004年、2014年

幹部自衛官・文民エリート意識調査結果の比較分析」
討論 道下徳成（政策研究大学院大学）
福田毅（国立国会図書館）

B-7 国際政治経済 責任者 毛利勝彦（国際基督教大学）

テーマ プレトンウッズ会議から 70 年後の国際政治経済
司会 毛利勝彦（国際基督教大学）
報告 大森佐和（国際基督教大学）
「IMF は変わったか——世界金融危機後の国際通貨基金の変革の検証」
杉之原真子（東京大学）
「為替相場の選好をめぐる政治経済学」
内記香子（大阪大学）
「規制・基準の増加が国際貿易体制に与える影響——競争とフラグメンテーションを超えて」
柳蕙琳（京都大学）
「日本と韓国の FTA 政策の比較制度分析——農業での自由化水準の違いと利益団体誘導説の再考」
討論 和田洋典（青山学院大学）
小尾美千代（南山大学）

B-8 国際交流 責任者 岸清香（都留文科大学）

テーマ 自由論題
司会 岸清香（都留文科大学）
報告 齋川貴嗣（日本学術振興会）
「知的協力から国際文化交流へ——1930 年代国際連盟知的協力国際委員会における理念変容」
大嶋えり子（早稲田大学）
「フランスにおけるアルジェリアの植民地支配と独立戦争の記憶——記憶を承認する法律をめぐる」
牧田東一（桜美林大学）、堀内めぐみ（桜美林大学）
「パブリック・ディプロマシーを通じた知識共同体形成の可能性とそのインパクト——日本財団 API プログラムを例として」
討論 大沼保昭（明治大学）
重政公一（関西学院大学）

◆11月15日（土）

分科会セッションC（13:30～15:10）

C-1 アメリカ政治外交 I 責任者 中嶋啓雄（大阪大学）

テーマ 冷戦変容期のアメリカ外交
司会 松岡完（筑波大学）
報告 山本章子（一橋大学）

「米国の海外基地政策としての安保改定——ナッシュ・レポートをめぐる米
国政府内の検討」

島村直幸（杏林大学）

「英米の『特別な関係』の再構築 1956-1963年」

栢山剛（宮崎第一高等学校）

「1968年におけるアメリカのベトナム戦争和平交渉政策——ジョンソン大
統領とニクソンの政策を比較しながら」

討論 藤本博（南山大学）

橋口豊（龍谷大学）

C-2 ロシア東欧

責任者 湯浅剛（防衛研究所）

テーマ 自由論題

司会 小森宏美（早稲田大学）

報告 宮崎悠（北海道教育大学）

「戦間期ヨーロッパにおけるマイノリティ問題と歴史観の比較——ポーラ
ンド=ユダヤ関係史を中心に」

長谷川雄之（東北大学）

「プーチン政権（2000年5月-）の政治改革とロシア連邦安全保障会議の権
限及び機能強化」

斎藤元秀（中央大学）

「ウクライナ危機とプーチンの戦略の検討」

討論 伊東孝之（早稲田大学）

武田善憲（外務省）

C-3 東アジアⅡ

責任者 西野純也（慶應義塾大学）

テーマ 現代中国の政治体制と対外政策

司会 加茂具樹（慶應義塾大学）

報告 杜崎群傑（中央大学）

「中国における『選挙権威主義』体制を確立する手段としての『人民代表会
議』制度」

謝志海（共愛学園前橋国際大学）

「中国の海洋大国戦略及び海洋領土紛争への影響」

討論 加茂具樹（慶應義塾大学）

毛利亜樹（筑波大学）

C-4 アフリカ

責任者 牧野久美子（アジア経済研究所）

テーマ アフリカにおける民主主義の現在——政権の継続・交代をめぐる諸要因

司会 牧野久美子（アジア経済研究所）

報告 濱野ちひろ（法政大学）

「地方分権化が選挙へ与える影響——ウガンダにおける地方選挙から」

長辻貴之（早稲田大学）

「クーデターと政権交代をめぐる力学——セネガルとコートジボワールを
事例に」

坂田有弥 (大阪大学)

「ジンバブエの『民主化』をめぐる国際社会の捻れ——土地問題と 2013 年
総選挙からの一考察」

討論 岩田拓夫 (立命館大学)

C-5 安全保障Ⅱ

責任者 福田毅 (国立国会図書館)

テーマ 1970 年代の日米同盟再考

司会 福田毅 (国立国会図書館)

報告 野添文彬 (沖縄国際大学)

「ベトナム戦争後の在沖米軍再編と日米関係——在沖海兵隊を中心に」

吉田真吾 (名古屋商科大学)

「日米防衛協力の起源」

討論 佐道明広 (中京大学)

楠綾子 (関西学院大学)

C-6 政策決定

責任者 信田智人 (国際大学)

テーマ 政治過程と規範

司会 信田智人 (国際大学)

報告 溜和敏 (日本学術振興会)

「政治過程が外交交渉に及ぼす影響——印米原子力協力交渉を事例に」

島山京子 (関西外国語大学)

「合理的選択と国内規範の相克——武器輸出三原則を事例として」

討論 藤田泰昌 (長崎大学)

C-7 平和研究Ⅰ

責任者 南山淳 (筑波大学)

テーマ 国際政治学と平和研究

司会 市川ひろみ (京都女子大学)

報告 杉浦功一 (和洋女子大学)

「関寛治の平和学と地球政治学構想」

佐々木寛 (新潟国際情報大学)

「平和研究とパワー・ポリティクス——高柳先男の政治的リアリズム」

宮下豊

「鴨武彦によるリアリズム批判の意味」

討論 遠藤誠治 (成蹊大学)

C-8 ジェンダー

責任者 戸田真紀子 (京都女子大学)

テーマ イスラーム世界と女性——イスラーム研究とジェンダー研究の対話

司会 田村慶子 (北九州市立大学)

報告 森田豊子 (鹿児島大学)

「現代イランの家族保護法の成立をめぐる議論」

辻上奈美江 (東京大学)

「『アラブの春』による身体の管理と表象、そして女性のエージェンシー」

討論 松尾昌樹 (宇都宮大学)

C-9 環境 I

責任者 石井敦 (東北大学)

- テーマ 東アジアにおける越境大気汚染の国際政治学
司会 亀山康子 (国立環境研究所)
報告 宮崎麻美 (熊本学園大学)
「交渉における協力・非協力の構造——ネットワーク分析からみた東アジア酸性雨モニタリング・ネットワーク (EANET)」
岡本哲明 (東北大学)
「東北アジアにおける大気環境管理枠組み形成の停滞要因——越境大気汚染の科学評価の観点から」
宮後裕充 (東北大学)
「日本の越境大気汚染外交と科学——臨界負荷量研究を事例に」
討論 高村ゆかり (名古屋大学)

◆11月16日(日)

分科会セッションD (09:30~11:00)

D-1 日本外交史 II

責任者 加藤聖文 (国文学研究資料館)

- テーマ 戦後日本外交再考
司会 加藤聖文 (国文学研究資料館)
報告 山口航 (同志社大学)
「総合安全保障の受容」
武田悠 (日本原子力研究開発機構)
「米国の対外原子力政策をめぐる日米欧の相克——包括的事前同意制度の形成過程 1977-1982」
討論 未定

D-2 アメリカ政治外交 II

責任者 中嶋啓雄 (大阪大学)

- テーマ 20世紀前半のアメリカ外交と東アジア
司会 中嶋啓雄 (大阪大学)
報告 伊丹明彦 (京都大学)
「ニューヨーク駐在ソ連非公式代表ボリス・スクヴィルスキーとワシントン体制の展開」
中沢志保 (文化学園大学)
「原爆と戦後世界——ヘンリー・スティムソンの視点から」
討論 高光佳絵 (千葉大学)
菅英輝 (京都外国語大学)

D-3 理論と方法 III

責任者 石黒馨 (神戸大学)

- テーマ 途上国政治の計量分析
司会 浜中新吾 (山形大学)
報告 岡田勇 (京都大学)

「資源レントと抗議運動——ラテンアメリカ 18 か国の世論調査データを基にしたマルチレベル分析」

中井遼（立教大学）

「後発民主主義国のナショナリズムに選挙が与える影響の計量分析」

浜中新吾（山形大学）、高岡豊（中東調査会）、溝渕正季（名古屋商科大学）

「シリア避難民の流入がもたらすレバノン市民の態度変容——自然実験によるアプローチ」

討論 河野勝（早稲田大学）

D-4 安全保障Ⅲ

責任者 福田毅（国立国会図書館）

テーマ イランの核問題をめぐる国際情勢

司会 川上高司（拓殖大学）

報告 宮本悟（聖学院大学）

「北朝鮮とイラン核・ミサイル問題——北朝鮮による対中東軍事協力からの試論」

坂梨祥（日本エネルギー経済研究所）

「イラン・イスラーム共和国の核政策——自立的な安全保障の追求とその限界」

討論 横田貴之（日本大学）

池内恵（東京大学）

D-5 国連研究Ⅱ

責任者 山田哲也（南山大学）

テーマ 国連平和維持活動（PKO）を巡る諸問題

司会 望月康恵（関西学院大学）

報告 坂田慶子（防衛大学校）

「国連平和維持活動の不偏性原則——国連コンゴ民主共和国活動を事例として」

都築正泰（内閣府）

「『第4世代』国連PKOの確立期における安保理の政治指導（1999-2004年）」

討論 上杉勇司（早稲田大学）

D-6 平和研究Ⅱ

責任者 南山淳（筑波大学）

テーマ 暴動と武力紛争をめぐる政治力学

司会 南山淳（筑波大学）

報告 富樫耕介（日本学術振興会）

「『二重の対立構造』——チェチェン紛争の分析枠組み」

油井美春（広島大学）

「暴動後社会におけるコミュニティ・ポリシング活動の効果——インドの事例を中心として」

討論 中溝和弥（京都大学）

野田岳人（群馬大学）

分科会セッション D・E (09:30~12:45)

D・E-1 若手研究者・院生研究会

責任者 鈴木 啓之 (東京大学)

(使用言語: 英語)

Title Dialogue between Different IR Traditions for One World: Western IR and the Challenge of non-Western/post-Western IR

Chair: Kazuhiro Tsunoda (Meiji University)

Speakers: Wiebke Wemheuer-Vogelaar (Freie Universität Berlin)

“The Diffusion of IR Theory: The Journey of a Thousand Miles Starts with a Single Citation”

Peter Marcus Kristensen (University of Copenhagen)

“(How) can the ‘Non-West’ Speak? On Emerging Powers and IR Discourse”

Josuke Ikeda (University of Toyama)

“From Territory to Travel: A Worldist Case for Post-Western IR”

Kohei Imai (Japan Society for the Promotion of Science)

“The Middle Eastern Contributions to Theory of International Relations: The Case for Turkey”

Tao Xu (Kyusyu University)

“The Emergence of the ‘Chinese School’?: The ‘Sinicization’ of International Relations Theory in China”

Discussant: Ching-Chang Chen (Ritsumeikan Asia Pacific University)

Shiro Sato (Osaka International University)

分科会セッション E (11:15~12:45)

E-1 日本外交史Ⅲ

責任者 加藤聖文 (国文学研究資料館)

テーマ 戦前日本外交研究

司会 加藤聖文 (国文学研究資料館)

報告 帯谷俊輔 (東京大学)

「中国問題の国際連盟提起をめぐる日英協調の不在——山東還付問題から満洲事変まで」

矢嶋光 (大阪大学)

「戦間期『新外交』論者と戦後冷戦秩序——芦田均の積極的再軍備論再考」

討論 未定

E-2 欧州国際政治史・欧州研究Ⅲ

責任者 芝崎祐典 (成城大学)

テーマ 戦後イギリス帝国研究の先端

司会 芝崎祐典 (成城大学)

報告 佐藤尚平 (金沢大学)

「脱植民地化研究の新地平——新出資料『帝国の遺産作戦』関連文書群の解題」

藤寄弘一（早稲田大学）

「イギリスの『ユーラフリカ』構想と戦後計画室、1942-1945年——西欧ブ
ロック、帝国戦略、冷戦」

討論 後藤春美（東京大学）

E-3 ラテンアメリカ

責任者 松本八重子（亜細亜大学）

テーマ ラテンアメリカ・カリブの諸相

司会 遠藤貢（東京大学）

報告 内田みどり（和歌山大学）

「2014年ウルグアイ大統領選挙」

小池康弘（愛知県立大学）

「キューバの新しい『外交革命』——イデオロギー・プラグマティズム・ソ
フトパワー」

松本八重子（亜細亜大学）

「トリニダード・トバゴの政党政治、エスニシティと外生的要因——E・ウ
ィリアムズ政権を中心に」

討論 岡部恭宜（JICA 研究所）

E-4 トランスナショナル

責任者 石井由香（静岡県立大学）

テーマ 自由論題

司会 鈴木規子（東洋大学）

報告 加藤恵美（早稲田大学）

「植民地責任としての多文化主義？——イギリス移民教育政策の検討」

小阪裕城（一橋大学）

「『世界へのアピール』とその後——全米黒人地位向上協会、国際連合と冷
戦 1945-1953」

討論 柄谷利恵子（関西大学）

E-5 環境Ⅱ

責任者 石井敦（東北大学）

テーマ 自由論題

司会 石井敦（東北大学）

報告 蟹江憲史（東京工業大学）

「レジームと目標アプローチによる問題解決の補完性——持続可能な開発
目標の新規性とチャレンジ」

井口正彦（東京工業大学／国連大学）

「環境規制の収斂にみる気候変動ガバナンス——欧州・日本・米国の自動車
燃費規制を事例として」

横田将志（日本大学）

「途上国による地域環境協力——大メコン圏（GMS）における環境協力を事
例として」

討論 勝間田弘（金沢大学）